

# ロコモティブシンドローム対策サプリー

## (運動器官障害症候群)

Locomotive Syndromes

食餌と一緒に摂取して高齢動物たちの  
ストレス回避に！

獣医代替医療研究会

有限会社 サン自然薬研究所  
獣医師・医学博士 小松靖弘



# ロコモティブシンドロームの概念

骨・関節・筋肉などの運動器官の働きが衰えると、日常生活の中で自立度が低下し、移動能力が衰えたり、要介護が必要になる危険の高い状態を言います。

## 何より早めの対策が大切です。

犬はヒトと同様に加齢と伴に体に様々な変化が起こります。よく見られるのが**変形性脊椎症**で、背骨の一部が変形してできた突起やブリッジが神経を圧迫し、痛みが出るものです。ひどくなると、おしっこが出せなくなったり、歩けなくなることもあります。

**変形性関節症も加齢とともに頻発する疾患で軟骨がすり減り、関節炎**が起こり易くなります。

いずれも重症化しやすいのは中・大型犬ですが、年をとれば犬種を問わず発症する病気なので、小型犬でも注意が必要です。

また、**膝蓋骨脱臼や股関節形成不全**など原因が先天性の場合は、若い頃から足がもつれたり、歩けなくなったりなどの影響が出ます。何より早めの対策が大事です。その他、神経的な病気が原因のこともあります。

## 後ろ足から弱るケースが多い。

犬は7:3の割合で前に体重をかけているため、前足ばかりに意識が行きがちです。徐々に後ろ足の筋肉を使わなくなっていくため、後ろ足から弱るケースが多く見られます。

老化が原因の場合は症状がゆっくりと現れるので、飼い主様が気づかないこともあります。歩き方やしぐさなど日ごろから注意深く観察してみましょう。

## 対策はどうしたらいいですか？

若い頃にたくさん歩いた犬ほど、運動量が少なくなっているから歩ける期間が長く、筋力、体力が残っているという実感があります。年をとってから筋肉を増やし、鍛えるのは難しいので、動けるうちに鍛えておくことが重要であると思います。小型犬でも、できるだけ朝晩のお散歩を心掛けましょう。

# ご注意！ロコモ障害の サインとは？

こんなサインが見られたら要注意です。

- 立ったり、座ったりに時間がかかる。
- 段差につまずく。
- しっぽを振る位置が低くなった。
- 歩く速度が遅くなった。
- 腰の位置が下がってきた。
- 膝が上がらず、足を引きずって歩く。
- 横座りしたり、伏せの姿勢がとれない。
- 後ろ足が閉じてしまう。

## **私達は提案します！**

**アスピリンと同程度の抗炎症・鎮痛効果を持つことが確認されている健康補助食品の投与を！**

本健康補助食品は抗酸化活性が強く、運動、活動で生体内に生じる活性酸素を除去し、炎症反応を抑制して、疾患発症の予防、あるいは疾患からの快復を促し、関節炎を抑制して運動機能改善に寄与できるものと考え、日頃より本健康補助食品の摂取をお奨めします。本健康補助食品はアスピリンと同程度の消炎、鎮痛作用を示しますが、消化管障害の副作用が無く、安全に長期に渡り有害作用を心配する事無く、摂取が可能です。

**(是非、ご活用下さい！)**



# 本剤の主な配合成分

- 樟芝末
- 西洋シロヤナギエキス
- デキストリン
- 西洋ヤナギエキス
- ショウガエキス
- 紅参末
- 澱粉分解物
- 鰹削り節末
- ハトムギエキス
- クチナシエキス
- ゆず種エキス
- ゆず末
- チェダーチーズ末
- 松樹皮エキス
- シナモンエキス
- ナツメエキス
- 甘草エキス
- 結晶セルロース
- グルコサミン塩酸塩
- ヘスペリジン
- 微粒二酸化ケイ素
- (一部に乳・カニ・エビを含む)